

学生会員向け企画「水環境ビジネスガイダンス」報告

産官学協力委員会 埼玉県環境科学国際センター 高橋基之

本年度の第42回年会における新企画の一つとして、水環境ビジネスガイダンス～水環境の仕事に携わりたい学生の皆さんへ～を実施した。ここに、その開催に至る経緯や実施状況などを報告する。

1. 企画の趣旨と経緯

今の学生は水環境の仕事をどう思っているだろうか、魅力を感じて働きたいと考えているだろうか、企業のどんな事を知りたいのだろうか、このような想いから今回の企画構想は立ち上がった。産官学協力委員会の催しでは「見学会」、「水環境サロン」、「水環境懇話会」が定期的に開かれており、主に企業などの団体会員と正会員を対象にしている。今回の企画は、新たに学生会員に向けたもので、多くの学生が集まる年会時期に合わせて行うのが適当と考えた。内容も、研究室の先輩や就職活動などからは得られない話題や情報を提供できればと考え、企業の第一線で活躍している若手技術者から、仕事の実状や楽しさを紹介してもらうことにした。

年会にはここ数年300名以上の学生会員が参加していることから、今回のガイダンスは100名程度の集客を見込んだ。日時は、開催期間中の2日目、年会パネルディスカッションが始まる前の昼休み1時間とし、自由な雰囲気気で気軽に対話ができるランチョンセミナー形式が良かったろうと考えた。そこで今回の趣旨に賛同していただける団体会員の企業を募ったところ、5社の企業が賛意を示してくださり、入社10年以内の若手技術者が発表してくれることになった。

当日のプレゼンでは、学生に関心と興味をもってもらうことを主眼に、個別企業の宣伝や仕事の詳細な説明は避け、5分程度で収まるよう、事前に担当委員から説明フローを提示して依頼した。内容は、①担当業務の簡単な説明、②学生時代の専門と業務の関係、③担当業務への想い、を大きな柱として説明してもらい、後半の質疑応答への話題提供となるよう簡潔に要領良くまとめてもらうことを心掛けていただいた。

2. ガイダンスの内容

ガイダンスの開催案内は学会誌2月号会告に掲載し、

年会受付では学生会員にプログラムを配布して周知を行った。しかし、後記3のアンケート意見にもあるとおり、事前PRは十分ではなく、また、ポスターセッションコアタイムと重複している時間もあったことから、参加申し込み人数は2日目朝で約50名と少なく盛り上がり心配された。しかし、当日の開会直前に会場付近で参加呼びかけをしたところ、参加者数は83名になり、写真1のとおり会場はほど良い程度に席が埋まった。

ガイダンスは、担当委員である住友重機械工業(株)鈴木哲史氏の司会進行により、飲食してくつろぎながら始まった。説明してくださった各企業の方々は次のとおりである。

- ・目黒裕章氏 (オルガノ(株))
- ・望月洋輔氏 (いであ(株))
- ・大和信大氏 (富士電機水環境システムズ(株) (現: メタウォーター(株)))
- ・杉浦純一氏 (株)日水コン)
- ・渡部雅智氏 (株)日立プラントテクノロジー)

初めに登壇した目黒氏は、直前に研究発表が終わり緊張から解き放たれたのでリラックスして話す切り出され、会場の雰囲気や和やかにしていただいた。そして水処理メーカーの仕事の流れと官公庁や専門家との関係を簡潔にスライドで説明された。学生時代の専門知識は就職後に必ずしも必要となるものではなく、調べる方法を身に付けているとよいとの意見であった。

望月氏は、総合コンサルタントの仕事の概要を紹介され、就職の際には、調査、分析、解析のすべてに対応している会社を選んだとのことであった。また、コンサルタントは日頃の積み重ねが重要な地味な仕事であり、年中、幅広いテーマで論文を書いている感じで、世間一般のスマートなイメージとは違うことを話された。

大和氏は、水処理プラントメーカーの仕事を紹介され、学生時代と就職後の研究で求められることの違いを示された。入社直後は営業に配属されたこと、現場で難しい問題や不具合があったときの辛さとそれを乗り越えたときにお客様と信頼関係が深くなること、また、自分が携わった製品が世に出たときの満足感について話された。

杉浦氏は、社会資本整備の流れから建設コンサルタン



写真1 会場の風景



写真2 若手技術者による発表の様子